

【講演テーマ】 認知症の人に対する鍼灸治療の実績および今後の可能性について

【演者】 兵頭 明(学校法人衛生学園中医学教育臨床支援センター センター長)

【講演概要】

健康長寿の実現、健康寿命の延伸を目的に天津中医薬大学・韓景献教授の研究グループにより開発された三焦鍼法を、認知症の人に用いた実績、および認知症の人に対する鍼灸治療の役割と可能性を一緒に探ってみましょう。

【抄録】

日本においては健康長寿の実現、健康寿命の延伸、そして認知症対策が喫緊の課題とされています。これらの社会的そして時代的な喫緊の課題を解決する一つの方法として、東洋医学ではどのような考え方にもとづき、どのような角度から、どのようなアプローチが行われ、どのような可能性を秘めているのでしょうか。本講習会に参加されている先生方と一緒に探ってまいりたいと思っております。

多くの高齢者は加齢とともに生理的予備能が低下し、健康な状態からプレフレイル、フレイルの状態を経過して要支援、要介護の状態にいたると考えられています。老年症候群が人の生理的予備能の低下によるものであれば、人の生理的予備能を東洋医学の考え方のもとづいて、しっかりとサポートすることが健康寿命の延伸、健康長寿の実現につながる(仮説)ということになります。

本日はご紹介いたします「^{さんしゅうしんぽう}三焦鍼法」の基本的なコンセプトは、「気」のサイドから人のエネルギー予備能に働きかけ、内臓機能、体温調節、代謝機能、免疫機能などに対して全人的・総合的な角度からサポートを行い、健康長寿の実現、健康寿命の延伸をはかろうというものです。

老化促進マウスを使った三焦鍼法の基礎研究では、脳年齢、骨年齢、生殖年齢、そして寿命の著しい延長効果が認められています。東洋医学では脳、骨、生殖機能、寿命は、すべて生理活性物質 X および「腎」の力と関係している(仮説)と考えられているので、この基礎研究の結果は三焦鍼法に生理活性物質 X および「腎」の力をサポートする優れた効果があることを示唆しています。その秘密を一緒に探ってみましょう。

第 1 部では、東洋医学では認知症をどのように捉えているのか、それにもとづいた認知症の予防と改善法の考え方はどうなっているのか等について紹介させていただきます。

第 2 部では、(一社)老人病研究会が平成 22 年 10 月から令和 3 年 12 月までに医療・介護連携による認知症 Gold-QPD 育成講座(実践セミナー)で育成してまいりました認知症専門鍼灸師が家族連携、施設連携をベースに取り組んできた在宅、高齢者入居施設、通所介護施設、グループホームなどでの取り組み成果の一部をご紹介させていただき、今後の様々な連携の中での認知症の人に対する鍼灸治療の可能性を一緒に探ってまいりたいと思っております。第 2 部の後半では、実技のデモンストレーションを行いながら、施術に際しての認知症の人への具体的な対応の仕方を、事例をあげながら紹介させていただきます。

【プロフィール】

略歴:

日本と中国の国交回復後の第1期国費留学生として1974年から中国・北京に留学。1982年、北京中医薬大学中医学部卒業。1984年、明治鍼灸柔道整復専門学校(現・明治東洋医学院専門学校)卒業。同年より学校法人後藤学園中医学研究所所長(現・学校法人衛生学園中医学教育臨床支援センター長)に就任、現在に至る。

日本の鍼灸教育への中国伝統医学(中医学)の導入、教科書の作成を行い、また中国伝統医学の真髄を広く日本に普及啓蒙をはかるために、現在までに著書・訳書は一般書を含め30数冊にのぼる。

肩書き:

学校法人衛生学園 中医学教育臨床支援センター センター長

天津中医薬大学 客員教授

(一社)老人病研究会 常務理事

(一社)日本中医薬学会 理事

主な著作:

- ・『針灸学』基礎篇・臨床篇・経穴篇・手技篇[四部作]共著(東洋学術出版社)
- ・『中医学の基礎』共著(東洋学術出版社)
- ・『中医学の仕組みがわかる基礎講義』(医道の日本社)

その他:

平成26年度・平成27年度文部科学省委託事業において、「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の認定を受け、認知症の人に寄り添う新たな人的資源となる中核的鍼灸専門人材の育成を目的として、日本初となる「西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系の3分野連携による認知症患者対応型モデル教材」(共著)を開発、本モデル教材のIT化をはかり、中医学教育臨床支援センターHPにて、無料で視聴できる学習支援環境を提供している。